

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年4月3日

【四半期会計期間】 第43期第2四半期(自 平成25年11月21日 至 平成26年2月20日)

【会社名】 ケイティケイ株式会社

【英訳名】 ktk INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 青山 英生

【本店の所在の場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 木村 裕史

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 木村 裕史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
ケイティケイ株式会社 東京支店  
(東京都大田区蒲田四丁目22番3号 住友生命蒲田ビル3F)  
ケイティケイ株式会社 大阪支店  
(大阪府中央区南船場一丁目13番14号 西田ビル4F)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第2四半期 連結累計期間	第43期 第2四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 平成24年 8月21日 至 平成25年 2月20日	自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日	自 平成24年 8月21日 至 平成25年 8月20日
売上高 (千円)	4,095,312	8,557,538	12,491,675
経常利益又は経常損失( ) (千円)	1,753	70,872	35,561
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失( ) (千円)	24,373	75,027	147,834
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	28,834	50,076	164,754
純資産額 (千円)	2,388,471	2,445,703	2,507,225
総資産額 (千円)	7,911,292	8,085,087	7,915,672
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損 失金額( ) (円)	5.59	13.11	29.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	30.2	30.2	31.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	144,485	332,305	702,474
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	549,661	72,555	456,275
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	62,153	290,952	408,192
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,366,121	1,370,777	1,484,686

回次	第42期 第2四半期 連結会計期間	第43期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年11月21日 至 平成25年 2月20日	自 平成25年11月21日 至 平成26年 2月20日
1株当たり四半期純利益金額又 は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	1.44	4.39

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第42期第2四半期連結累計期間、第42期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第43期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第43期第2四半期連結累計期間の売上高が、第42期第2四半期連結累計期間と比較して増加した主な理由は、株式会社青雲クラウン及びS B Mソリューション株式会社が連結対象会社となったことによるものです。
6. 当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンでは、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成25年8月21日～平成26年2月20日)におけるわが国経済は、政府主導による経済政策や日本銀行の金融緩和策が下支えする中で、企業収益や個人消費が改善に向かうなど、景気は緩やかながらも回復しつつあります。しかしながら、欧州債務問題や新興国経済の成長鈍化など世界経済の下振れ懸念もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは今期第1四半期より敷いた新たな営業体制を軸に顧客接点の強化を図り、引き続きお客様の立場に立ったきめ細かな営業活動を展開しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前期第2四半期連結累計期間と比較して連結子会社2社の増加があり、8,557,538千円(前年同四半期比109%増)となりました。営業損失は80,139千円(前年同四半期連結累計期間は2,615千円の営業損失)、経常損失は70,872千円(前年同四半期連結累計期間は1,753千円の経常損失)、四半期純損失は75,027千円(前年同四半期連結累計期間は24,373千円の四半期純利益)となりました。

なお、セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (サプライ事業)

当社グループの主力商品であるリサイクル商品(リパクトナー)は、積極的な販売活動とともに景気回復による企業活動の活発化にも後押しされ、販売本数は前年同四半期を上回りました。しかしながら企業の経費削減の徹底及び競合他社との価格競争の影響を受け、平均販売単価が下落した結果、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

OAサプライ商品は、純正トナーカートリッジ、純正インクなどのサプライ用品のほか、PPC用紙、ビジネスフォームなどの紙製品の売上高が順調に推移しました。

その他商品においては、当社独自のWeb購買システム「ケイティケイ はっするネット」の推進による一般事務用品などの売上高が順調に推移、また前期第2四半期より連結対象となった株式会社青雲クラウンの売上高、今期より連結対象となったS B Mソリューション株式会社の売上高が加わり、増加しました。

これらの結果、売上高は8,455,783千円(前年同四半期比112.7%増)、セグメント損失(経常損失)は74,127千円(前年同四半期連結累計期間は21,746千円のセグメント損失)となりました。

なお、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

### (ソリューション事業)

「@Securemail」シリーズによる売上高が増加したものの、大型ホスティング案件の終了と旧サービスの契約変更により売上減の影響を受けました。また、技術部門の人員補強により売上原価が増加しました。

これらの結果、売上高は101,754千円(前年同四半期比15.6%減)、セグメント利益(経常利益)は3,255千円(前年同四半期比83.7%減)となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ169,415千円増加し、8,085,087千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ66,500千円増加し、5,285,379千円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が187,916千円増加し、現金及び預金が99,144千円減少したこと等によります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ102,914千円増加し、2,799,707千円となりました。これは、主に投資その他の資産が241,862千円増加し、有形固定資産が139,993千円減少したこと等によります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ153,254千円増加し、4,859,288千円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が29,566千円、短期借入金が125,459千円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ77,681千円増加し、780,095千円となりました。これは、主に長期借入金が183,165千円増加し、役員退職慰労引当金が105,160千円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ61,521千円減少し、2,445,703千円となりました。これは、主に利益剰余金が86,471千円減少したこと等によります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ113,908千円減少し、1,370,777千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、332,305千円(前第2四半期連結累計期間は144,485千円の獲得)となりました。収入の主な要因は、減価償却費62,829千円、仕入債務の増加額29,566千円であり、支出の主な要因は、税金等調整前四半期純損失102,476千円、役員退職慰労引当金の減少額105,160千円、売上債権の増加額187,838千円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、72,555千円(前第2四半期連結累計期間は549,661千円の獲得)となりました。収入の主な要因は、有形固定資産の売却による収入114,635千円、保険積立金の解約による収入118,230千円であり、支出の主な要因は、無形固定資産の取得による支出36,609千円、貸付けによる支出200,000千円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、290,952千円(前第2四半期連結累計期間は62,153千円の使用)となりました。収入の主な要因は、短期借入金の純増額125,459千円、長期借入れによる収入500,000千円であり、支出の主な要因は、長期借入金の返済による支出316,835千円、配当金の支払額11,516千円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループでは、サプライ事業のリサイクル新商品に関する研究開発活動を連結子会社である株式会社アイオーテクノにて行っており、当第2四半期連結累計期間の研究開発費は8,166千円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年2月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年4月3日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,875,000	5,875,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,875,000	5,875,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年2月20日		5,875		294,675		708,475

## (6) 【大株主の状況】

平成26年2月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
加藤道明	愛知県春日井市	870	14.81
青山英生	名古屋市昭和区	769	13.10
青雲堂株式会社	名古屋市中区丸の内3 - 13 - 27	440	7.49
名古屋中小企業投資育成 株式会社	名古屋市中村区名駅南1 - 16 - 30	400	6.81
川島和之	岐阜県岐阜市	229	3.90
伊藤主計	名古屋市守山区	223	3.80
青山正幸	名古屋市昭和区	183	3.11
青山知広	名古屋市昭和区	170	2.89
ケイティケイ株式会社	名古屋市東区泉2 - 3 - 3	152	2.60
青山深雪	名古屋市昭和区	130	2.21
計		3,567	60.73

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。



## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年2月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式152,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式5,721,500	57,215	
単元未満株式	普通株式 700		
発行済株式総数	5,875,000		
総株主の議決権		57,215	

(注) 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式15株を含んでおります。

## 【自己株式等】

平成26年2月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ケイティケイ株式会社	名古屋市東区泉 二丁目3番3号	152,800		152,800	2.60
計		152,800		152,800	2.60

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年11月21日から平成26年2月20日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年8月21日から平成26年2月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,924,197	1,825,052
受取手形及び売掛金	2,535,410	2,723,327
有価証券	20,998	21,003
商品及び製品	536,933	550,804
仕掛品	2,972	447
原材料及び貯蔵品	65,872	57,827
その他	137,036	111,110
貸倒引当金	4,542	4,194
流動資産合計	5,218,879	5,285,379
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,174,804	1,104,279
その他(純額)	463,971	394,503
有形固定資産合計	1,638,776	1,498,782
無形固定資産		
その他	227,590	228,635
無形固定資産合計	227,590	228,635
投資その他の資産		
その他	839,737	1,081,522
貸倒引当金	9,310	9,233
投資その他の資産合計	830,426	1,072,289
固定資産合計	2,696,793	2,799,707
資産合計	7,915,672	8,085,087
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,875,907	2,905,473
短期借入金	1,384,582	1,510,041
未払法人税等	20,621	6,818
賞与引当金	30,939	36,771
その他	393,983	400,183
流動負債合計	4,706,033	4,859,288
固定負債		
長期借入金	404,928	588,093
役員退職慰労引当金	183,405	78,244
その他	114,081	113,757
固定負債合計	702,414	780,095
負債合計	5,408,447	5,639,383

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月20日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	708,475	708,475
利益剰余金	1,532,242	1,445,770
自己株式	46,419	46,419
株主資本合計	2,488,973	2,402,501
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,251	43,202
その他の包括利益累計額合計	18,251	43,202
純資産合計	2,507,225	2,445,703
負債純資産合計	7,915,672	8,085,087

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月21日 至平成25年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成26年2月20日)
売上高	4,095,312	8,557,538
売上原価	3,078,661	6,886,806
売上総利益	1,016,651	1,670,731
販売費及び一般管理費	1,019,267	<sup>1</sup> 1,750,870
営業損失( )	2,615	80,139
営業外収益		
受取利息	87	1,609
受取配当金	522	5,905
仕入割引	-	18,982
受取家賃	3,499	15,540
その他	3,062	8,055
営業外収益合計	7,172	50,094
営業外費用		
支払利息	5,177	11,616
売上割引	-	22,994
その他	1,132	6,217
営業外費用合計	6,310	40,827
経常損失( )	1,753	70,872
特別利益		
負ののれん発生益	26,297	-
保険解約益	-	12,198
特別利益合計	26,297	12,198
特別損失		
投資有価証券評価損	260	1,050
たな卸資産廃棄損	-	37,805
固定資産除却損	-	4,947
特別損失合計	260	43,802
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	24,283	102,476
法人税、住民税及び事業税	6,987	4,495
法人税等調整額	7,077	31,945
法人税等合計	90	27,449
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	24,373	75,027
四半期純利益又は四半期純損失( )	24,373	75,027

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月21日 至平成25年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成26年2月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	24,373	75,027
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,460	24,950
その他の包括利益合計	4,460	24,950
四半期包括利益	28,834	50,076
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,834	50,076
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月21日 至平成25年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成26年2月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	24,283	102,476
減価償却費	43,196	62,829
貸倒引当金の増減額( は減少)	398	425
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	5,423	105,160
賞与引当金の増減額( は減少)	3,985	5,831
受取利息及び受取配当金	610	7,515
支払利息	5,177	11,616
負ののれん発生益	26,297	-
固定資産除却損	0	4,947
保険解約損益( は益)	660	12,198
投資有価証券評価損益( は益)	260	1,050
売上債権の増減額( は増加)	58,978	187,838
たな卸資産の増減額( は増加)	49,268	3,300
仕入債務の増減額( は減少)	101,657	29,566
その他	14,442	10,038
小計	150,699	313,112
利息及び配当金の受取額	610	7,515
利息の支払額	5,179	11,374
法人税等の支払額	1,644	15,335
営業活動によるキャッシュ・フロー	144,485	332,305
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	69,021	276,774
定期預金の払戻による収入	66,010	262,010
有価証券の取得による支出	7	5
有形固定資産の取得による支出	15,034	6,069
有形固定資産の売却による収入	-	114,635
無形固定資産の取得による支出	11,647	36,609
投資有価証券の取得による支出	1,338	5,656
投資有価証券の売却による収入	6	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	563,380	-
貸付けによる支出	-	200,000
差入保証金の差入による支出	117	48,072
差入保証金の回収による収入	420	18,145
保険積立金の積立による支出	7,570	10,882
保険積立金の解約による収入	26,862	118,230
長期前払費用の取得による支出	2,282	1,505
投資活動によるキャッシュ・フロー	549,661	72,555

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月21日 至平成25年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成26年2月20日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	18,000	125,459
長期借入れによる収入	-	500,000
長期借入金の返済による支出	2,886	316,835
リース債務の返済による支出	5,296	6,155
自己株式の取得による支出	25,086	-
配当金の支払額	10,884	11,516
財務活動によるキャッシュ・フロー	62,153	290,952
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	631,993	113,908
現金及び現金同等物の期首残高	734,128	1,484,686
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,366,121	1,370,777



【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年 8月20日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成26年 2月20日)
受取手形割引高	262,256千円	210,298千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8月21日 至 平成25年 2月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日)
販売費及び一般管理費のうちで主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費のうちで主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 317,441千円	給与手当 569,397千円
賞与引当金繰入額 24,960千円	賞与引当金繰入額 27,273千円
役員退職慰労引当金繰入額 6,564千円	役員退職慰労引当金繰入額 6,333千円
貸倒引当金繰入額 623千円	
	2 売上高の季節的変動 当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンでは、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第 3 四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8月21日 至 平成25年 2月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 1,798,629千円	現金及び預金 1,825,052千円
預入期間が 3 か月超の定期預金 432,508千円	預入期間が 3 か月超の定期預金 454,274千円
現金及び現金同等物 1,366,121千円	現金及び現金同等物 1,370,777千円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成24年 8月21日 至 平成25年 2月20日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月13日 定時株主総会	普通株式	10,911	3	平成24年 8月20日	平成24年11月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月29日 取締役会	普通株式	17,166	3	平成25年2月20日	平成25年5月7日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成24年12月21日付で当社を完全親会社とし、株式会社青雲クラウンを完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この株式交換により、発行済株式数が2,200,000株増加するとともに、資本剰余金が448,800千円増加しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年8月21日 至 平成26年2月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月13日 定時株主総会	普通株式	11,444	2	平成25年8月20日	平成25年11月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年8月21日 至 平成25年2月20日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サブライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,974,780	120,532	4,095,312		4,095,312
セグメント間の内部売上高 又は振替高		211	211	211	
計	3,974,780	120,744	4,095,524	211	4,095,312
セグメント利益又は セグメント損失( )	21,746	19,992	1,753		1,753

(注) セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「サプライ事業」セグメントにおいて、当社が平成24年12月21日に株式会社青雲クラウンを完全子会社化したため、当第2四半期連結累計期間において、負ののれん発生益26,297千円を計上しております。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント損失には含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年8月21日 至 平成26年2月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,455,783	101,754	8,557,538		8,557,538
セグメント間の内部売上高又は振替高		158	158	158	
計	8,455,783	101,913	8,557,696	158	8,557,538
セグメント利益又はセグメント損失( )	74,127	3,255	70,872		70,872

(注) セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月21日 至 平成25年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月21日 至 平成26年2月20日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	5円59銭	13円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	(千円) 24,373	75,027
普通株主に帰属しない金額	(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額又は 普通株式に係る四半期純損失金額( )	(千円) 24,373	75,027
普通株式の期中平均株式数	(株) 4,357,277	5,722,185

(注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年4月3日

ケイティケイ株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 太 田 豊 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 西 野 賢 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイティケイ株式会社の平成25年8月21日から平成26年8月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年11月21日から平成26年2月20日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年8月21日から平成26年2月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイティケイ株式会社及び連結子会社の平成26年2月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。